

ふるさと奥尻通信

令和2年1月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

青苗地区の祭事では、漁家の玄関で「コシモ ダイリョウ イノリマス」、「エビス ダイコク フクノカミ」などと歌い上げます。「キリゴエ」というニシン漁の網起こし時の音頭に由来するものです。

特集 奥尻町の神社祭祀 その②

前号に続きまして、島内各地の神社祭りの様相をいくつかご紹介いたします。

宮津地区には弁天岬の上に「宮津弁天宮」(中津嶋神社)が建っています。ここは独立した岩山に建てられた社で、奥尻海峡と対岸(北海道本島)を眺めることができる観光名所にもなっています。漁師さんは見慣れているのですが、海上から見る弁天様の社は、粗い岩肌の上に白壁と赤屋根が映える立派なものです。弁財天は漁師が好む神様ですので、大漁祈願で参拝してから釣りに出かける人もあるとか。

隣の地域である東風泊(やませどまり)地区には「海洋神社」があり、こちらも漁師街らしく、海神を祀る神社です。地区名と祭神に長くこの地で生業を立ててきた地元漁師たちの息吹を感じます。

現在、山車が出て巡行しているのは、奥尻地区の澳津神社「神威山」と青苗地区の言代主神社「恵比須山」の2つです。赤石地区の保食神社「稲荷山」は、祭り会場に曳き出されてきて、参加者に公開しています。谷地地区の「子宝山」は休止中です。



宮津地区 宮津弁天宮の参道と弁天岬



奥尻地区 澳津神社「神威山」と山車倉庫



青苗地区 恵比須山の山車人形



澳津神社 復活した四箇散米舞

島の東海岸中央部、赤石地区の保食神社では、近年に幟と内幕、御神燈(提灯)などを新調しました。この地区では協賛行事として出店やアトラクション、山車「稲荷山」の展示も行っています。担い手不足により地域の伝統行事を維持するのが難しくつつある今日、少ない人数ながらも協力して行事を行うことができているように見えます。地域文化を末永く保っていくには、地域コミュニティを維持しておくことが重要であることが判ります。これから他の神社祭祀を維持していく上で参考になる事例と言えましょう。

同じく東海岸南東部の松江地区には、現在1社(少名彦神社)が維持管理されていますが、10数年前にはもう1社がありました。付近に江差より分祀した八大龍神社がありましたが、平成5年震災以降に合祀されたようです。平成13年(2001)には社が残っていましたが、同15年にはすでに社が撤去されて笹藪に覆われて跡地もはっきり見えなくなりました。

島の最南端、青苗地区の言代主神社では、去年は山車の「恵比須山」が市街を巡行しましたが、神輿は出ませんでした。青苗の神社は平成5年(1993)の震災により神輿、山車ともども失っていましたが、平成7年の第61回伊勢神宮式年遷宮にあたり、「内宮別宮月讀宮」の解体材をもらい、復元したものです。これは非常に稀なことですので、今後もこの社殿は地域で大事にしていってほしいものです。山車は平成10年に、神輿は平成13年に新調したもので、それぞれの保存会が維持管理しています。山車の曳手はそれなりに集まるのですが、神輿の担ぎ手が毎年少ない人数です。1名で20kg程度を担ぐのが適当なので、少なくとも20名は欲しいところ。若者の奮起に期待です。



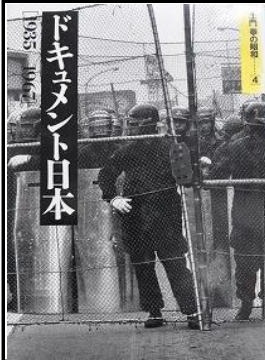
赤石地区 保食神社での神事



青苗地区 言代主神社 神輿



昭和30年頃の青苗地区の祭りの様子です。ニ〇(ニマル)西本商店の前で青年団の女性たちが盆踊りをしているところを、地元の小中学生や大人たちが取り巻いています。手作りの山車には「青苗青年団」と書かれた大型のスピーカーが乗せられ、音頭をとる軽快な音楽が流されていたことでしょう。踊り手の中に男性が一人いるのもご愛嬌ということで。周りの木造建物にも年代を感じ出せる趣があります。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

土門拳の昭和4 ドキュメント日本 土門 拳

昭和10年(1935)~同42年(1967)の32年間に写された戦前・戦中・戦後日本の一場面、一場面。演出、いわゆる「やらせ」を一切排除し、直感的にシャッターを切る。「絶対非演出の絶対スナップ」。リアリズムに溢れた日本の日常。欧米向けグラフ誌「NIPPON」掲載の写真群を始め、開戦前夜の世相、敗戦後復興期の東京やそこに住む庶民等。

魚のつり 奥尻のつり 秋・冬号

11月になりまして、ようやく奥尻島周辺にもスルメイカが回遊してきました。島内各港に所属する漁船は奥尻湾周辺と青苗湾周辺の2グループに分かれ、一部は西海岸へも漁場を求めて出港していました。帰港は夜中~朝方までと徐々に伸びてきており、中には大漁して400箱水揚げした船もあったとか。これが毎日のように続けば大バンザイなのですが、時化する季節ですので数日出港できない日もあり、一喜一憂です。磯釣りの方は、期待通りソイ類、ハチガラ、カジカが数多く上がっています。ホッケは期待薄なのですが、たまにアブラコに混じて釣れてきます。11月中には抱卵した個体が、12月以降は抱卵後の個体でした。年末に近付くと降雪が続き、いよいよ冬本番になりますが、この頃からサクラムスの便りがちらほら始まります。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つげ1ヶ月 第37回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

俺くられてりは女高 とい方二原がた良菓を
の、動てる叫一生く築言るは三君大。くはや学校
腕、れない腕ん島徒な港う。始人の変キ伸大ったに
。くいたなだのはっをの鈴め来方でヤび抵たに
で。らんり子ワて出で木ててで、べて枯。来
は俺本だしーイ船た祭さな取三葉ツ居れ芋て
なの當。なだ、はらりんのっ人がもたてに始
い腕にこい。騒か波をの、かて、食大。い病ま
かを良の。決いなが見船、い佐わき黍たが前
。見いくこしでり東て十大た藤れかも。つ
今る島らのてい揺風い二変。君てつ延豆いに
に、はい島騒るれ気た頃劣高のいたびはた華
見肉立でをいがた味。出っ一方たがて大の取
るびて恐立だ男。に るてので。虫い体かり

つづく

数のゾれとめづれイク濃の
多五イなは、つぞの口いで毎
く〇がい無一連れ三ゾよす年
釣セ釣よい度つ棲種イウがよ
れンれうのにてんが、で、く
て子たなで全いで有マス今釣
い台り場す種まい名ゾ。年れる
まが、所が類するでイソはる
す各くで、釣。処す、イソ魚
。地口も普れそががシ類イが
点ゾシ段の少、マは類違
でイマ釣こたしそゾ、がう

今年はソイ類が好調



感謝状授与された永洞達也会長

ねた一評な頭祭と会掃し状が島
。め同価どでりし、、来が、チー
にこさをのへと鍋二、贈こ一昨
頑れれ実クのべ釣〇長呈のム年
張かた施り協ン岩年浜さ度島結
つらもしス力キ展ぶ海れ奥お成
てもてマ、塗望り岸ま尻これさ
く町できスフリ台ののし町した
だのすたイェ、の花海たよーた
さ発。こペリ地サ火浜。りで
い展会とン一域ビ大清結感す
の員がト埠の落 成謝 奥尻

チーム島おこしに感謝状

た。内十館十で様すみカ雪暖
。冷一)倍もでがな漁にの年
船凍室。以十、がのは差が明
長イ生福上二な毎気景なが
さん丸岡あ月ん年に況つ大
をか所たけも回けついく、
ありたら属とははるていま
がだ新のか前やよいてせ順
とき鮮一(年。うるはん。調
う。まな第函比そなの島。な
し船二)でれ有で民イ積寒

新米之記録(編集後記)

伊五集がる尻今あとが彩ま例
豆年ま注チ高年るな足なしの十一
大につ目ヤのはもつり顔た町一月
島土たをリボ多のてなぶ。民月二
へ石募集テラ色とおくれ近文二・三
贈流金めイン刷なり、は祭日、
ら災はて一テりつ、る、は祭日、
まに平まザア版いごど示示開
し遭成し一局面またのバ物催が
たつ二た。なにやす。え盛ネが
。た十)どよ奥の。況ル多れ恒

町民文化祭にぎやかに

今月の奥尻のお宝



道南れきぶんカード 徳洋記念碑